

刊夕日八廿月四

常警日新新聞

定価 一部金五銭 五部金二五銭 郵費別
 廣告料 五銭 十二字 一行 金五銭
 日曜 祭日の日 休刊
 発行所 常警日新新聞社
 印刷所 常警日新印刷株式会社

童話の指導 (一)

寺田 喜治郎

◇母親は偉大なる児童心理学者だといはれます。子供の事を真険に考へてゐるお母さん達は、子供の一舉一動、一言一句をおろそかには見てゐない筈です。少し熱が高い、助膜になりはせぬかと思つて直ぐ胸に濕布をしてやる、中耳炎を起しはせぬかとすぐ耳に氷をあてがつてやる。ほんとの母性愛はそこまで母親を働かせます。お医者さんは中々そこまで行きません。熱が高いと検温する、脈を調べる、呼吸を見る、二三日経過を見て「いや、これは助膜だ」となる。母性愛はお医者さんより一歩先を歩いてゐる。商賣でないからです。切つても切れぬ肉身の血が繋がつてゐるからです。母の愛は母をして偉大なる醫者とするやうに又母をして偉大なる心理学者たらしめるのです。子供の心が手にとるやうに分るのは恐らく十五億の世界人の中で、たつた一人の母親だけでせう。併しながら麻雀に憂き身をやつてゐる奥様方新聞の讀み物しか讀まないやうな奥様方、消費組合に買物に行くにさへ錦紗の羽

織を引つかけたやうな奥様方では眼が曇つて居ます。子供の心持を見つめるなどといふ純な聖い仕事は出来ません。

◇通じて申しますと、子供の心理で第一に目につくのは生活感、充實といふこととです。子供は自分の生活に全心的にしたり切つてゐる。土運び、おまじごつこそんなものには夢中になつて居るのです。御飯だから「お歸り」といつても第一その聲が耳にもはいらぬのです。この子は横着だね

○明日の献立○
 朝 味噌汁 わかめ 小
 とやき のり
 晝 ラードいため 筍と
 玉子
 晩 牛肉 馬鈴薯 甘露
 煮 清汁 海老 新
 如 三つ葉

え、大きな聲でいつても聞えないふりをして「などといつて叱るお母さんがあつたら、お母さんこそどうかしてゐるのです。小學生の作つ童話に

今夜の川は
 きれいだな
 お月さんが
 とまつて
 にぎやかだ
 川のさざ波にだけける月
 光を見て、子供は自分の生

活感からにぎやかだと見るのです。自分等の生活とかけ離れたものには全然興味をもたぬ、といふよりも全くかけ離れたものでさへ自分等の生活の中に引入れて興味を持つといつた方が適當かも知れません。青葉茂れる櫻井の」と歌ふには歌ひますが、その文句は子供の世界には縁もゆかりもない興味のないものです。でも子供はその音とリズムだけを抜き出して自分の生活内に取入れてゐるのです。つまりぬものの中からもなるべく、いゝ所を見つけて自分のものにしてやうとする。ありがたい心持が子供の中心にあるのです。良寛さんが子供の前にひざまづいたといふ意味も分るやうな気がします。

常警文藝

飯村 閑舟


議論に花を咲かせつゝ、卓を叩いた意氣のよさ顔は赤さの色と燃えあつて笑うて手を握る。いつもよいよい友柄を知つて信ずる仲のよさ互に流れた十年の雨に嵐に……なほつゞく學帽は昔の春の夢捨て、なつかしき今もなほ苦しみ泣き苦しき苦勞をば語ろう二人を誰が知る



毎度有難う存じます
レストラン 平曾館
 電話 624

内科 外科 一般
金成醫院
 金成 忠 義
 平鎌田町(電話三五八)

春の
 レンコート
 春のオーバ
 春のセビロ
 御用命を!
 平町 正 札堂洋服店
 電話四三番



難波 陸
 内科 一般
 醫學博士
 看護婦募集
 平町大町新川端
 電話五〇二

皆様の足
 尼子タクシーへも豆タクが入りました
 御支關から支關へ 迅速簡便
 是非御利用を
 市内 三〇銭
 市外 四割引
 流線型セダン
 大型貸切バス
 宮行 直通は二丁目尼子自動車部より發車いたします
 平町二丁目
尼子自動車商會
 電話六四〇番

吸入用酸素純度 99%
 度量衡
 モノサシ
 マス
 ハカリ
 器量計
 体温計
 寒暖計

關内藥局
 電話四〇番

藤沼醫院
 内科 小兒科 花柳病科
 平町紺屋町 電話五〇七番

ムシ竈製造

著しい發展

今では出色の 平町の特産品

平町の特産品として最近全国的に販路を擴張しつつある蒸竈は昨十年度に於いて平驛の發送高が一萬七千三百餘箇に達し五年前一ヶ年の製造高二千箇内外に比すると鐵道輸送のみで八倍強に達して居るが最近一ヶ年の製造高は縣外移出近郷への供給を加へ二萬四千五百箇に及びその發展は目覚ましいものがある

繭糸祭を

縣社で執行

平蠶業取締所は廿八日午前十時から管内蠶業技術員實行組合長、農倉庫係員其他五十餘名を招き縣社子鐵倉神社で繭糸祭を執行終つて松ヶ岡公園で觀櫻會を催した

飾窓にこめた... 教へ子達の熱意

廿年勤續の蛭田前訓導

記念品を贈る

過般退職した平第二小學校訓導蛭田イサ氏の教へ子の父兄有志は同訓導の勤續二十年の功勞に酬える一端として昨二十九日午後一時から平第二校作法室で謝恩送別會を開き有志六十二名が贈金して記念品に店頭飾窓一個を贈呈する筈である

小名濱で

陸上計劃

埋立土地利用

小名濱港陸上計畫調査委員會はこの程港灣協會に依り

更生聯合會石城支會は來月五日午前十一時から郡下指

無火災は

小名と永戸

五月三日若松市に於て開催される第二十回縣下組頭大會で平署管内で表彰される無火災消防組並に優良消防組員は左記の如くである
△無火災 永戸消防組
△小名濱消防組△優良組員
▲功績章湯本組頭井坂千

永年勤續吏員を

町村長支會表彰

町村長石城支會評議員會は本廿八日午前十時から既報の如く町會議室で開き町吏員表彰の件、磐城高等女學校寄附金に關する件第六號國道改良期成同盟會に關する件を協議した、尙卅日支會總會に於ける町村吏員豫定表彰者に勤續年數左記の通り
小名濱町助役高木保(一八年四月) 山田村収入役久保木直亮(一五年一月) 植田町書記小宅廣喜(一六年七月) 同小川善次(一五年五月) 江名町同新妻和(一六年八月) 小名濱町同村上眞太郎(一八年) 磐崎村同佐藤菊松(一八年) 湯本町同内山吉五郎(一五年四月) 同高木鋒彌(一五年一月) 内郷村同吉田仙治(一五年三月) 平町同佐藤伊太郎(一六年) 好間村同志賀久吉(一五年) 永戸箕輪

女學校校長

協議會開く

縣下女學校校長協議會は來月十一日より二日間新築の磐城高等女學校講堂で開催される、尙縣下中學校長會は來月四、五兩日白河中學校開くと

内郷から

河川改修

監督所に陳情

沼田内郷村長は本廿八日午前中平土木監督所に同村宮川、並に白水川兩河川改修を陳情をしたが同河川の護岸不完備で多少の降雨にも出水例年多數の犠牲者を出して居るので現在縣支辨の工事が中止になつて居るのを速かに改修されたいと云ふにある

不定期の

貨車増發

平驛は最近常磐線の石炭雜

貨物の輸送が増加したので來月一日から卅一日迄平、田端間、平、水戸間に不定期貨物列車二本を増發する

二郵便局昇格

平郵便局管内赤井、川部、走熊の三郵便取扱所は從來年金及簡易保險を受け付けず且貯金拂戻にも不便が多かつたので部落民は昇格の運動



を起して居たが仙臺遞信局では本年度事業として是等取扱所を漸次無集配局に昇格させる事の意思を有する模様である

片倉製糸總會

平町磐城片倉製糸會社は本廿八日午前十時から株式總會を開き利益金處分及び定款一部變更等を附談した

平町人事

回出生

△古鍛冶町三五 橋本勝次 氏二男富司さん

回婚

△石川郡中谷村大字中田宇高野三一鹽田三郎氏(二七)南町一〇長瀬貞子さん(二八)

回死

△南町六七 當時小名濱町字古港八二佐藤寛治氏(七五)
△古鍛冶町三〇 江尻行子さん(一七)

光の春を駆て!

皆様旅のガイド 不二の車は待つ

タクシー不二

未知ノドライブコース オ問合せ下さい 電 32番

一の井田町へ進出以來未だ日淺、今日絶大なる御支援を賜り有難く御禮申上ます、
擬、離新館増築中の處々落成致しました、是非御散策のお歸りには!

一の井 別館落成

静かなお座敷 一の井 電 一六七



玉屋洋品店

平町電話五五六番

和漆器家具は 和久井屋

平町電話五五六番

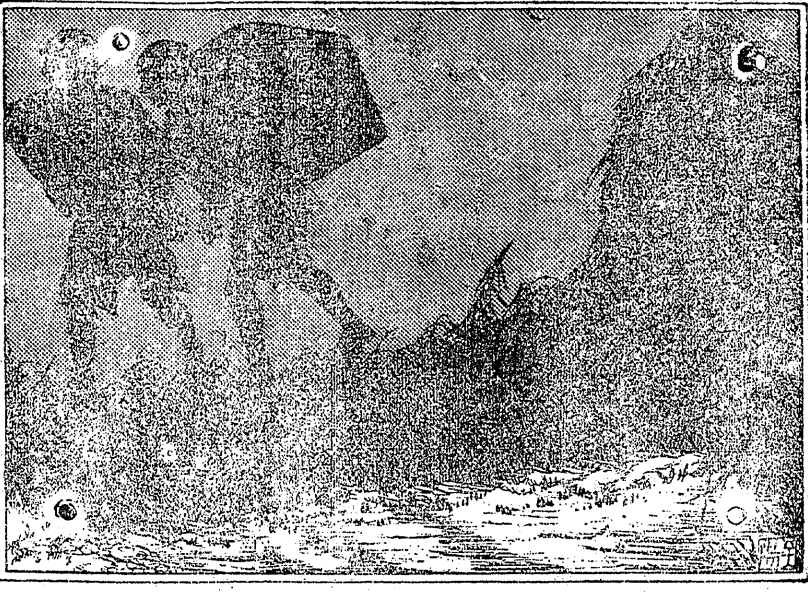


繞る瓦解の今

悟道軒圓玉(作)
丸尾至陽(書)

一〇七 どちらが主人
お花が葛籠に忍んで居るとは知らず甚太郎という悪黨が地藏堂より葛籠を引き出し宙腰になつて連雀に手を貫し

甚「どつこいしよ、滅法重いやさつき持つて来た時より目方がふえたやうだ、ツム判つた雨が、かつたのでふやけたな」
兼「葛籠がふやけるわけもなからう」
甚「それでも重くなつたやうだぜ、むかし話の舌切雀にも重い葛籠には實は入つてゐず三ツ目入道が辨慶編のどてらを着て鐵の棒を持つて出て来たさうだ、然しこの中にはみつちり宜いものが入つてゐるぜ、それ出掛けやう」



甚太郎は葛籠を背にして兼松と話ながら田甫を超えて甘丁あまり来たが沼をうしろにした一軒の百姓屋の前足止め、戸のやぶれ目から中をのぞくと障子に映る人影、アハハと笑ひ聲がもれる、兼松はびつくりして

兼「これは不思議だ、オイ甚太郎俺達の不在に誰かこゝに入つてゐるぜ」

出て来い、とんでもねえ野郎だ
甚「これは呆れた、俺の不在に入り込んで主人のやうなことをいふとは、ヤイ甚太郎が歸つて来たこゝの主

人の御飯館だ開けろ、とさびしく戸を叩く、それを聞くと障子を開けて土間におりやがてガタガタと戸を開き
○「さア此方へ入んなせえ大層おそく歸つて来たな」といつたその人を見ると三十四五になる色の黒い大きな男、甚太郎も兼松もはじめてこんな者に出會ひ一体これは何者かと足の爪先から頭の上まで見上げ
○「お前は何者だ」
甚「お前の、俺は矢切の渡しの船頭で清六といふものだ、お前は何んだ今頃葛

とは知らなんだ、では此方に入りなさい茶も沸いてゐるだ、ゆつくり休息して行かつせえ」
甚「オイ兼松世の中には圖々しい奴が生きてゐるぜ、他人の家へ無断で入つて茶を飲んでゐる、此奴は矢切の船頭だ」とよ
集「何んだとて矢切の船頭が今頃こゝへ来んか、まア何しろ中へ入れ」
甚「肩がみり／＼する、だん／＼葛らが重くなつて来るやうだ、ヤイ船頭そこにては邪魔だといつてくれ、ドッコイシヨ」
甚太郎が敷居をまたいた時に葛らを鴨居にハタと打ちつけてグラ／＼と葛らが動く、その時中にゐたお花が
花「あ、痛い何をすんだね」
といつた、驚いた甚太郎あつと振り向いて
甚「誰かまだ外にゐるのかつららが口をきいたやうに思ふな、何にそれは俺の氣の爲だと、何んだか今夜は怪有だよ」
といひながら葛らを縁に置き足を洗つて上らうとした時にフト目についた爐を前にして煙草を服んでゐる年頃廿七八になる男、大清と白く襟字のある印半天を着て手拭を肩かけ此方を見たその目のすこいこと、甚太郎は思はずあとにさがつたするとその男が甚太郎と兼松を見て
○「ヤイ甚太郎に兼、こゝはてめえ達の集か」

といはれて二人が
兩「お、松兄イでございませうかえ、何うしてこゝへ来なすつたか」
とまたおどろいた

美味！ 芳醇！ 宗正らひた

山崎合名會社
電話一〇番

花の春！

春は麗か花盛り
行きませう……
花の野へ!!山へ!!!
カメラを持つて
皆んなで楽しく朗かに!!!
そして記念の撮影を!
暗室不要 國産カメラの代表品

東郷製 メイコーカメラ

MSカメラの新型も澤山入荷しました
MSカメラ 特約店 いづみや玩具店
平 驛 前

開店御披露

おでん甚平

腕は江戸前
味自慢
おでん
かん酒
◎是非御氣輕に御試食を……
田町五(三丁目裏通り)

お醤油は

ヤマフル

醤油味噌
たひら正宗
鯉節食料品



鹽屋

福島縣平町
電話二七〇番
明治生命磐城代理店 山崎與三郎